

2.5 地方ブロック毎の特徴

底生動物の中には、温暖な気候に適応した南方系の種、寒冷な気候に適応した北方系の種、温暖な気候から寒冷な気候まで幅広い気候に適応した広範分布種、分布や生態自体がよくわかっていない種などがみられます。中でも南方系種や北方系種に目を向けますと、例えば食用として持ち込まれた南米原産のスクリンゴガイ（ジャンボタニシ）やアメリカ合衆国南東部原産のアメリカザリガニは比較的温暖な気候に適応した南方系の種であり、ニュージーランド原産で北半球の亜寒帯～温帯域に広く分布するコモチカワツボは比較的寒冷な気候に適応した北方系の種と考えられます。ここでは、国外外来種のうち、南方系の種と考えられるスクリンゴガイと北方系の種と考えられるコモチカワツボの確認状況について整理しました。

【南方系・北方系国外外来種の確認状況（スクリンゴガイとコモチカワツボ）】

(底生動物調査)

・スクリンゴガイは中部地方以西および中国地方以南、コモチカワツボは中部地方以東で確認。中部地方では両種を確認。

南方系の国外外来種と考えられるスクリンゴガイと、北方系の国外外来種と考えられるコモチカワツボについて、4巡目調査における河川での確認状況を整理しました。

スクリンゴガイは中部地方の大井川以西および中国地方の瀬戸内海側以南で確認され、コモチカワツボは中部地方の天竜川や北陸地方の神通川以東で確認されました。

4巡目調査では、スクリンゴガイは中部、関西、四国、九州地方が分布の中心、コモチカワツボは東北、関東、北陸地方が分布の中心です。中部地方は南方系のスクリンゴガイ、北方系のコモチカワツボのどちらも生息可能な地域であることがわかります。

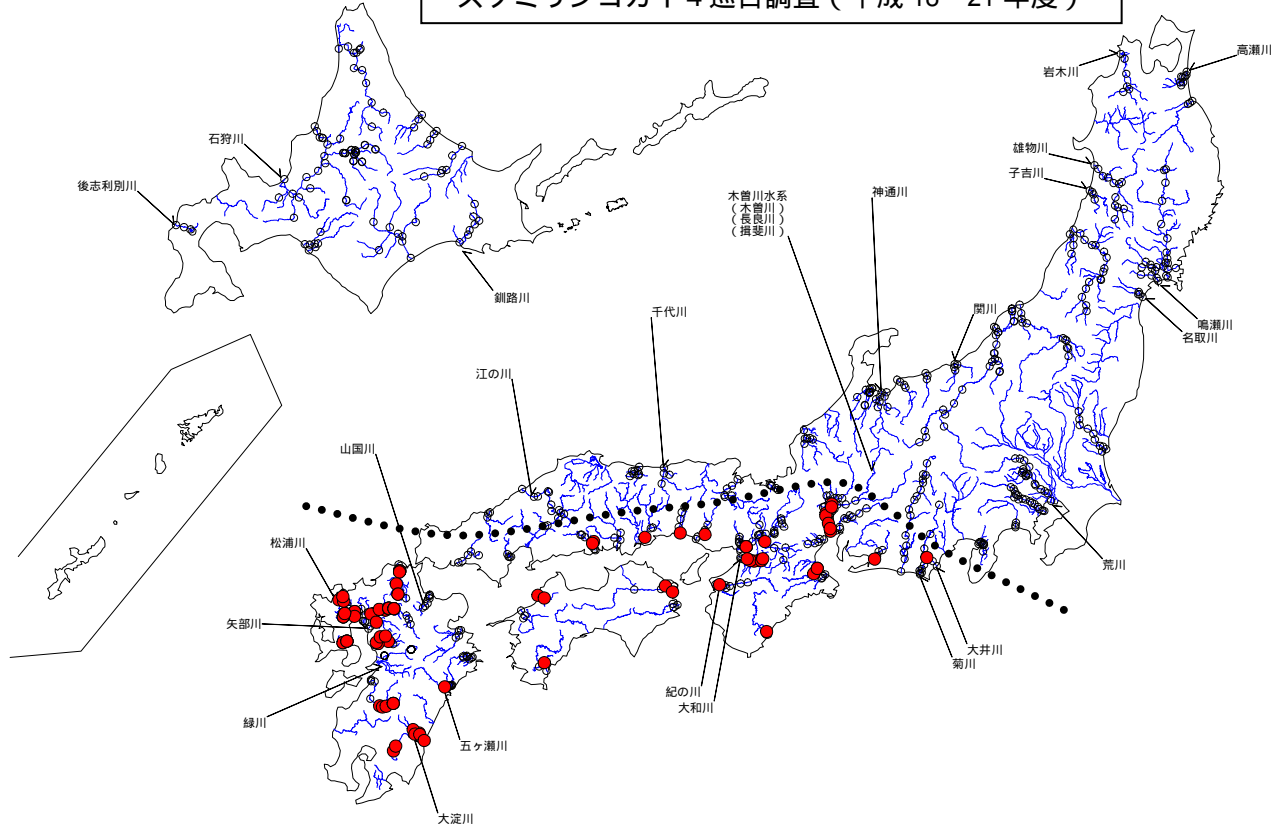
(資料掲載：2-38～41 ページ)

今回南方系種として扱ったスクリンゴガイは南米原産の種で、低温にさらされると死亡率が高くなることが知られています。このため、比較的気温・水温が低い地域には分布できない種であると考えられます。北方系種として扱ったコモチカワツボはニュージーランド原産の種で、湧水などの冷水域に分布することが多いのですが、比較的高い温度でも生息できるという温度耐性を持っています。

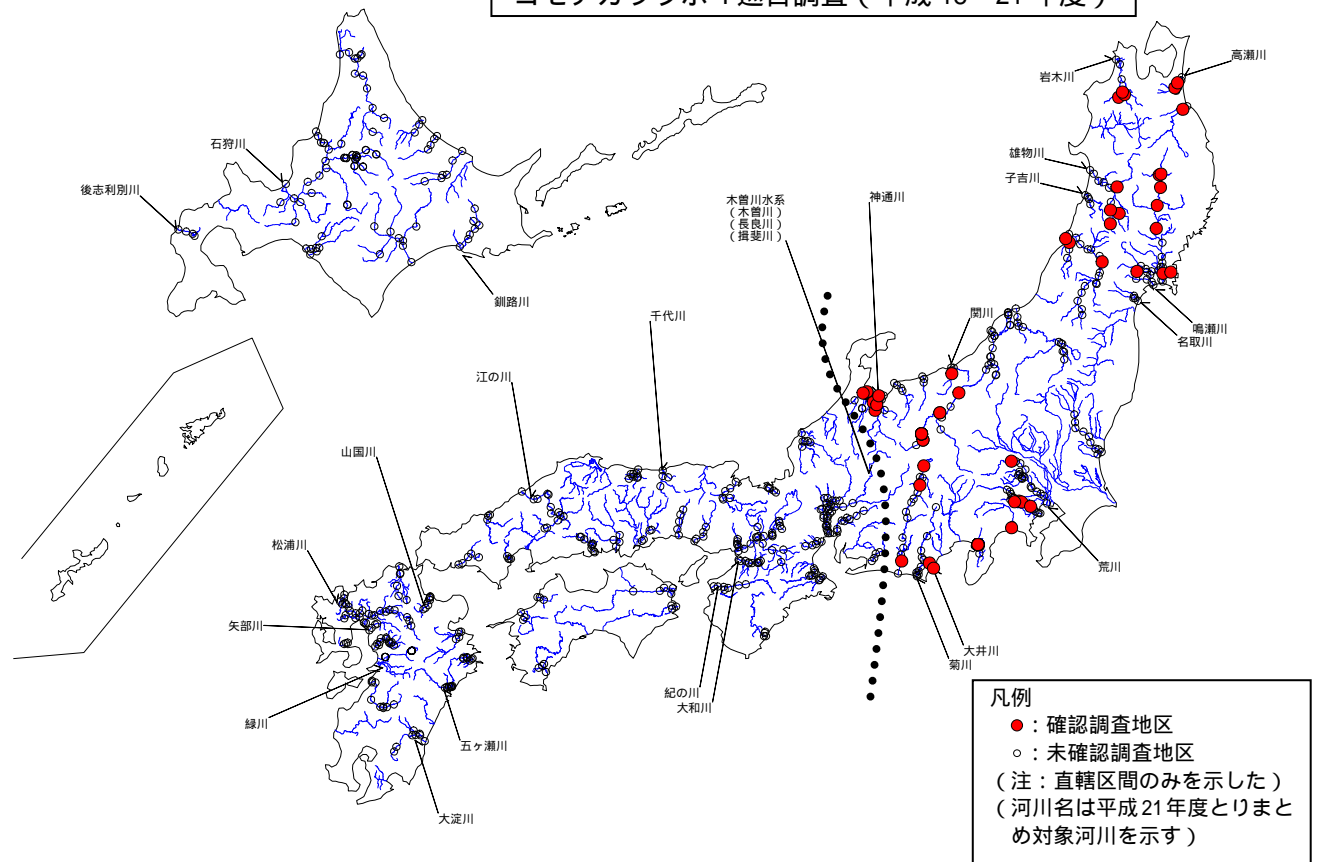
スクリンゴガイは、中部地方の大井川以西および中国地方の瀬戸内海側以南で確認され、コモチカワツボは中部地方の天竜川や北陸地方の神通川以東で確認されました。文献などの資料では、スクリンゴガイは茨城県以西の水田などを中心に分布し、コモチカワツボは北海道から九州まで広く分布していることが知られています。スクリンゴガイは水田などの止水域を主な生息場所とし、またコモチカワツボは中部地方以西などの温暖な地域では山間部の細流といった水温が比較的低い場所などに生息していることから、河川水辺の国勢調査の調査範囲とは異なっていることが原因と考えられます。

4巡目調査では、スクリンゴガイは中部、関西、四国、九州地方が分布の中心、コモチカワツボは東北、関東、北陸地方が分布の中心となっていました。中部地方は南方系のスクリンゴガイ、北方系のコモチカワツボのどちらも生息可能な地域であることがわかります。地球温暖化などの影響により今後この分布が拡大していくことや、分布の中心が北方にずれていくことが懸念されることから、今後とも南方系・北方系種の分布には注目していく必要があると考えられます。

スクミリンゴガイ 4 巡目調査 (平成 18~21 年度)



コモチカワツボ 4 巡目調査 (平成 18~21 年度)



注) 4 巡目調査は調査実施途中で、123 河川中 33 河川が調査未実施である。

スクミリンゴガイ・コモチカワツボ確認調査地区 (4 巡目調査)